

平成29年度「山形学」講座 第1回

今年度の「山形学」のテーマは「地理・地形」。第1回目は「山形の生い立ち」と題して、山形大学教授の八木浩司氏・大友幸子氏を迎えし、「山形学」企画委員の廣瀬隆人氏をコーディネーターにシンポジウムを開催しました。

大友幸子氏は、山形の大地の生い立ちについて、地質や岩石の基礎知識もふまえ、地質図や年表などを見ながら解説いただきました。日本列島がアジア大陸の縁から離れて形成されたこと、山形県が海の時代を経て陸化したこと。また、山形の山や滝、建物などいくつかの観光地の成り立ちについてご紹介いただき、現在目にしている風景が壮大な地球の歴史の中で形づくられてきたことを学びました。

八木浩司氏からは、時間・空間など多様な視点で地図を見ること、傾斜の変わり目や身近な場所のランドマークに気づき意思を持って見るとぼんやりした風景に輪郭をもたせることができることなど、景観から地形を読み解く方法についてお話いただきました。さらに、棚田・スイカ・さくらんぼ・ニジマス養殖など、山形県内でも各地域によって異なる産物・産業が発展した理由などを、地形と気候の関係から解説いただきました。

山形の大地の壮大な成り立ち、そして私たちの暮らしとの繋がりを学ぶ、大変有意義な講座となりました。

第1回「山形の生い立ち」

コーディネーター：廣瀬隆人氏（一社）とちぎ市民協働研究会代表理事）

講師：八木浩司氏（山形大学教授）

大友幸子氏（山形大学教授）

場所：遊学館3階 第1研修室

日時：平成29年7月8日（土）13：30～16：00

参加者：92名



平成29年度「山形学」講座 第2回

第2回目は「山形の生い立ち～最上川上・中流～」と題して、最上川リバーツーリズムネットワーク代表の佐藤五郎氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の菊地和博氏をコーディネーターにシンポジウムを開催しました。

佐藤五郎氏からは、「最上川の水質と舟道開削」をテーマにお話しいただきました。一県一河川で山形県のほとんどの地域が最上川流域に含まれること、交互に連なる盆地と峡谷部の数が多い河川であること、最上川各所の水質は地形などの影響のほか鉱山や人口などの人為的な影響を受けていること、急流で酸素が供給され河川の自浄作用が働く峡谷部が最上川の水質に大切な役割を担っていることなど、具体的に解説いただきました。また、江戸期の最上川舟道開削について、古文書などをもとにした当時の工法研究と実証実験を紹介。当時の難工事と最上川舟運の重要性も解説いただきました。さらに、佐藤氏が、最上川上流から下流までをボートで下り撮影した臨場感あふれる川面からのダイジェスト映像もご紹介いただきました。

最後に、コーディネーターの菊地氏から、「最上川舟運安全への祈りと文化」をテーマにお話しいただきました。難所を無事に航行するための心のよりどころを形に表した神社や石碑、水難除けの祈願の習俗が流域に残っていることや、村山市大淀地区に伝わる「かぶだれ餅」習俗などについて、解説いただきました。

最上川を通した山形の成り立ちや文化について、自然科学と人文科学の両面から学習する有意義な講座になりました。

第2回「山形の生い立ち～最上川上・中流～」

コーディネーター：菊地和博氏（東北文教大学短期大学部総合文化学科特任教授）

講師：佐藤五郎氏（最上川リバーツーリズムネットワーク代表）

場所：遊学館3階 第1研修室

日時：平成29年7月30日（日）13：30～16：00

参加者：84名



平成29年度「山形学」講座 第3回

第3回目の「山形学」講座は「山形の生い立ち～最上川下流～」と題して、酒田市文化財保護審議会会長の土岐田正勝氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の小林好雄氏をコーディネーターに、酒田市内で現地学習を行いました。

はじめに土岐田氏は、庄内平野の誕生が、陸と海の時代を繰り返し200～150万年前にようやく陸化したこと、砂州に囲まれ外海から遮断されていた太古の庄内湾は、地殻変動や河川の堆積物、海流の変化などにより変貌し、今日の庄内平野が形づくられたと解説。また、現在の山居倉庫はかつての最上川の跡にあることなど、洪水被害の激しかった最上川の河道の変遷について、地図で示しながら詳しく解説いただきました。

さらに、江戸時代の土木家・河村瑞賢について、酒田を始点港とする西廻航路の確立により、人口が2倍になるなど酒田の急速な発展に多大な貢献をした人物として紹介。江戸後期の酒田湊は、「全国湊番付」に東前頭二枚目としてランクインしていたとのこと。しかし、明治以前から全国的に有名な河川港であった酒田港は、流入する土砂等により水深不足になり、船舶の大型化も伴い利用頻度が著しく減少。昭和4年に第二種重要港湾に指定されると、土砂の港内侵入を防ぐため、港と河口の大規模な分離工事が開始され、酒田港は河川港から海湾港へと変化したとお話いただきました。

水田の洪水被害や川遊びなど、講師自身の幼少期と最上川の思い出などユーモアを交えたお話もあり、和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。当日は雨上がりの好天に恵まれ、実際の地形などを確認することで、最上川河口の歴史や酒田の文化・繁栄について理解を深めた一日となりました。

第3回「山形の生い立ち～最上川下流～」

コーディネーター：小林好雄氏（株）出羽庄内地域デザイン代表取締役）

講師：土岐田正勝氏（酒田市文化財保護審議会会長）

場所：出羽遊心館・下瀬閘門跡地・最上川河口南防波堤・日和山公園・酒田北港緑地展望台

日時：平成29年8月19日（土）9：00～17：00

参加者：85名



平成29年度「山形学」講座 第4回

第4回目の「山形学」講座は「山形の生い立ち～米沢城下町～」と題して、元山形県立米沢工業高等学校教諭でおしょうしなガイドの香坂文夫氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の本田香奈子氏をコーディネーターに、南陽市・高畠町・米沢市で現地学習を行いました。

はじめに、南陽市鳥上坂から、イザベラバードがアジアのアルカディアと称賛した田園風景を見学。この美しい風景の立役者が、江戸時代後期に米沢藩の大灌漑事業を手掛けた黒井半四郎であることを紹介。その黒井が設計施工した黒井堰大樋（高畠町糠野目）、黒井堰取水口（米沢市窪田）等も見学し、米沢藩に大きな恵をもたらした灌漑水路のネットワークが現在も活用されていることを学びました。

次に、江戸時代前期、直江兼続の都市計画により米沢城下にはりめぐらされた水路の中で、下水道の役割を担っていた地蔵川や、有事の備えを施した堀立川等を見学。あわせて城下の情景なども詳しく解説いただきました。また、米沢市赤崩にて、直江石堤を見学。上杉景勝入城により、一夜にして3万人以上の人々が生活するようになった米沢藩において、吾妻山系の溪流が平野部に落ちて引き起こされる大洪水を止めることが急務であったこと、直江兼続の治水・利水の起点であることなどを解説いただきました。

最後に、おまけとして、米沢藩が力を入れた医学教育に因み、蛮社の獄で逃亡した医師高野長英をかくまったとされる高畠町下和田の高橋嘉膳病院跡を見学しました。

置賜地域を北から南まで見学し、現在の私たちの生活までも潤し続けている治水・利水事業の偉大さ、地形を活かしたまちづくりの重要性を改めて感じる有意義な講座となりました。

第4回「山形の生い立ち～米沢城下町～」

コーディネーター：本田香奈子氏（高等学校非常勤講師）

講師：香坂文夫氏（おしょうしなガイド・元山形県立米沢工業高等学校教諭）

場所：南陽市鳥上坂・高畠町糠野目（黒井堰大樋）・米沢市門東町（地蔵川・武者道）・米沢市赤崩（直江石堤）・高畠町下和田（高橋嘉膳病院跡地）ほか

日時：平成29年9月9日（土）9：00～16：45

参加者：76名



平成29年度「山形学」講座 第5回

第5回目の「山形学」講座は「山形の生い立ち～近代都市山形～」と題して、山形大学名誉教授の阿子島功氏、山形大学教授の小林俊介氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の松尾剛次氏をコーディネーターに、シンポジウムとまち歩きを行いました。

小林俊介氏は、高橋由一の絵画や菊地新学の写真などを通して初代山形県令三島通庸によってつくられた山形のまちなみなどを解説。当時の写真や絵画は明治天皇の行幸に伴い三島が撮らせ描かせたもの。“可視化”されることで近代都市にアイデンティティが生まれたこと。当時の油絵はアートではなく写真に近い存在でリアルを写す技術の一つであったこと。由一は西洋絵画を学んだが、浮世絵のようなニュアンスで描いたり写真を手本に描いたり、頭の中には江戸時代の感覚が残っていたこと。また、由一の長男、源吉が山寺を描き観光地化に重要な意味をもたらしたことなどをご紹介いただきました。

阿子島功氏は、三島通庸の新市街地計画と地形について解説。三島プランは、街全体の社会的な施設配置としては妥当であったが、江戸時代に何度も洪水がおきた馬見ヶ崎川旧河道に県庁がおかれ防災面から考えると地形を見る目がなかったと言えること。馬見ヶ崎川の扇状地にある山形市街は、東西方面の傾斜に加え、東西に流れた多くの旧河道跡を横切る南北方向の路面にも高低差が生まれ波打つ様子が確認できること。イザベラバードは日本奥地紀行で「県都山形は小高い所にあり」「官庁街は白くそびえて」など山形を高く評価してたと思われることなどを紹介。その後、江戸時代の街道、堰の位置や土地の高低差などを実際に確認しながら山形市街のまち歩きを楽しみ、地形を視点に山形市街地を見つめ直す有意義な講座となりました。

今年度全5回の講座での学びをもとに、山形の魅力をさらに深めていただければと思います。

第5回「山形の生い立ち～近代都市山形～」

コーディネーター：松尾剛次氏（山形大学教授）

講師：阿子島 功 氏（山形大学名誉教授）

小林 俊介 氏（山形大学教授）

場 所：遊学館第一研修室・山形市内

日 時：平成29年10月7日（土）13：00～16：30

参加者：71名



☆平成29年度「山形学」フォーラム及び講座は、全講座終了後に内容をまとめ、講座録として“遊学館ブックス”を発刊しております。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。